

ご 挨拶

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターは、平成13年に設立された学内共同教育研究施設で、有明海・八代海を中心とする沿岸域環境に関する幅広い教育・研究を行い、地域社会に貢献することを目指しております。有明海・八代海は熊本県西側全域が接している海域で、我が国でも突出した干満差が大きく広大な干潟が形成されている特徴のある沿岸地域です。希少・貴重な動植物も数多く生息しており、閉鎖度の高い世界的にも特異な海域となっています。これらの沿岸域はまた、複数県にまたがる農業・工業・水産業の生産場ともなっており、人間によるこれらの生産活動の累積効果によるものと思われる、生物多様性の減少、漁獲量の激減、赤潮に伴う養殖漁業の被害等の海域水質変化に伴う環境問題や、台風による高潮災害等々、多くの沿岸域特有の問題が顕在化しています。

沿岸域センターでは、発足以来これら地域固有の環境問題への対処を目指した研究・教育活動を実施してきており、平成21年度の活動として、従来から展開中の2つの研究プロジェクト『沿岸域における生物多様性と生物資源の保全に関する研究』および『閉鎖性沿岸海域環境に関する先端科学技術研究』を推進すると共に、その支援体制としての学外協力研究者制度を機能させてきました。各研究グループは、2つのプロジェクトの下に、海産生物の多様性や水産生物資源の調査研究、有明・八代海底質環境の変遷分析、養殖海苔の色調発現機構の分子生物学的解明や有用新品種の分子育成、干潟沿岸域環境の保全・開発・防災などの研究を、他大学、国土交通省、環境省、農林水産省、熊本県、熊本県水産研究センター、熊本県内漁協、地元企業等と連携して実施しています。加えて平成20年度採択の熊本大学拠点形成研究B『閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成』プロジェクトには、センターの専任教員全員が参加し、タイトルに則った成果に向けて一丸となって取り組んでおります。さらに平成17年度に採択された文部科学省の科学技術振興調整費による『有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証実験（代表滝川清教授）』も精力的に実施しており、今年度はその最終年度取りまとめ研究を引き続き遂行しています。

このようなセンター専任教員、客員教員、学外協力研究者による各種研究成果を地域の皆様に還元するための取り組みとして、市民公開講座の開催や、県内外の大学、県内の小中学生・社会人への臨海実習の実施、高校と大学の連携教育事業等様々な企画を実施・参画しております。またセンターの各スタッフは、それぞれの専門分野のプロとして国・県・地方自治体等の審議会・委員会の委員を務めたり、各種団体・企業に対する技術指導を行ったり、またNPOとの連携活動に協力すること等を通して、有明海・八代海の再生とより良い沿岸域環境の創造に向けた社会的取り組みにも広く貢献しています。

本講演会もこれらのセンター社会貢献活動の一環として実施されるもので、少し専門的ではありませんが、日ごろ取り組んでいるセンター教員、客員教員、学外協力研究者らの研究活動の一端を報告するものです。今回は、沿岸域センターの5名の専任教員と2名の客員教員に加えて、1名の学外協力研究者（長崎大学）にも講演をお願いしています。講演内容は、沿岸域環境の基礎研究から応用分野としての保全・再生・防災まで含んだ多岐に渡るもので、限られた時間ではありますが、最新成果の報告をできればと思っております。活発なご討議と適確なアドバイスを頂ければ幸いです。

熊本大学沿岸域環境教育研究センター
センター長 嶋田 純